

プーチン杯国際ジュニア柔道大会 ～ 遠征報告～

感謝



期 日 平成 29 (2017) 年 3 月 21 日 (火) ~ 29 日 (水)
[大会実施日 3 月 26 日 (日)]

場 所 ロシア連邦 サンクトペテルブルグ市

目 次

参加者名簿	・・・	2
行程	・・・	2
大会結果	・・・	3
メンバー感想文	・・・	4
あとがき	・・・	9



・表彰式の様子



・ロシア選手との合同練習後



・エカテリーナ宮殿にて



参加者名簿

	役 職	階 級	氏 名	所 属
1	選 手	90kg 超	久保田皓晴	白銀中学校 3年生
2	選 手	90kg	森 健心	松原中学校 3年生
3	選 手	81kg	熊谷 一起	夜須中学校 3年生
4	選 手	73kg	山城 悠雅	夜須中学校 3年生
5	選 手	66kg	川口桜次郎	城島中学校 3年生
6	選 手	60kg	福山 駿	夜須中学校 3年生
7	選 手	55kg	山口健太郎	曽根中学校 3年生
8	選 手	50kg	犬塚 大斗	大牟田中学校 3年生
9	団 長		久野 裕久	九州管区警察学校 柔道教授
10	審 判		野口 博之	県立八幡高等学校 教諭
11	コ ー チ		渡邊 裕二	九州電力株式会社 会社員
12	コ ー チ		渡邊 敏行	サニックススポーツ振興財団

行程

期 日	時 間	内 容
3月21日(火)	15:00	福岡空港発 [J A L 318 便] 羽田空港からバス移動
	18:50	成田空港着
	21:20	成田空港発 [エミレーツ航空 319 便]
3月22日(水)	4:10	ドバイ空港着
	10:00	ドバイ空港発 [エミレーツ航空 175 便]
	14:30	サンクト・ペテルブルグ (プルコヴォ 1) 空港着 時差 - 6 時間
	18:00	ホテルチェックイン [Parklane Hotel]
3月23日(木) ~25日(土)	終日	練習、市内観光ほか 大会に参加するロシア各地のチームととの合同練習
3月26日(日)	終日	大会当日
3月27日(日)	17:00	サンクト・ペテルブルグ (プルコヴォ 1) 空港発 [エミレーツ航空 176 便]
3月28日(火)	0:00	ドバイ空港着
	2:40	ドバイ空港発 [エミレーツ航空 318 便]
	17:25	成田空港着 成田空港からバス移動
	21:00	ホテルチェックイン [J A L シティ羽田]
3月29日(水)	7:10	羽田空港発 [J A L 305 便]
	9:05	福岡空港着 解散

大会結果

1 結果

優 勝	日本（福岡県） 5年ぶり二回目
準優勝	チェチェン共和国
第3位	サンクトペテルブルク
第3位	北西ロシア

参加10チーム 8人制団体戦

2 内容

【予選リーグ結果】

	プールA
第1位	日本（福岡県）
第2位	チェチェン共和国
第3位	モスクワ州
第4位	サスノリボル
第5位	ビリキノープル

【予選リーグ内容（日本チーム分）】

第1試合		第2試合	
日本 5対3	モスクワ州	日本 対4	チェチェン共和国
犬塚	大 腰	犬塚	送襟絞
山口	横四方	山口	送襟絞
福山	背負い投げ	福山	優 勢 GS、技有
川口	支釣足	川口	小内刈
山城	背負返	山城	上四方
熊谷	優 勢 GS、指導	熊谷	反 則 指導3
森	送襟絞	森	横四方
久保田	送襟絞	久保田	反 則 指導3
第3試合		第4試合	
日本 5対3	サスノリボル	日本 8対0	ビリキノープル
犬塚	優 勢 技有（背負投）	犬塚	内 股
山口	送襟絞	山口	背負投
福山	出足払	福山	送襟絞
川口	優 勢	川口	内 股
山城	優 勢	山城	背負投
熊谷	背負返	熊谷	送襟絞
森	横四方	森	不 戦
久保田	不 戦	久保田	内 股

【決勝トーナメント内容（日本チーム分）】

準決勝			決勝		
日本	7対1	北西ロシア	日本	6対2	チェチェン共和国
犬塚		袈裟固	犬塚	優 勢	G S、指導
山口		送襟絞	山口	上四方	
福山		優 勢	福山	優 勢	G S、指導
川口		大外刈	川口	体落し	
山城		優 勢	山城	内 股	
熊谷		優 勢	熊谷	谷 落	
森		不 戦	森	横四方	
久保田		反 則	久保田	縦四方	
		指導 3			

メンバー感想文

【50kg級 犬塚 大斗（大牟田中学校）】

今回、福岡県選抜に選んでいただきありがとうございます。自身2回目の海外だったんですけど、1回目よりとてもいい経験が出来ました。

柔道面では、変則的なロシア人の柔道を体験出来ました。その中で、良かった点と悪かった点がありました。まず良かった点は、勝敗にこだわって最後まであきらめずに柔道を取り組めたことです。決勝で、GSに入ってとてもきつかったけれども、勝ちたいという気持ちが強かったから、勝てたと思えました。次に悪かった点は、ロシア人の組み手に圧倒され、下がりながら組み手をしてしまった事です。決勝でGSに入って勝ったものの、自分に妥協をして下がって組み手をしていたので、今後は組み手で逆に圧倒出来るように、高校でも頑張っていきたいと思えます。

最後に、今回の試合は新ルールでの試合で、やはり一本を取り切る技を作れるように頑張りたいと思ったり、高校進学前に貴重な体験をさせてもらって、とても感謝しています。高校では、このロシア遠征をステップにして一年生から大活躍出来るように、先生方の期待に応えられるように頑張っていきます。今回は本当にありがとうございました。

【55kg級 山口 健太郎（曽根中学校）】

将来、柔道で世界一を目指す僕にとって、今回、ロシアの試合に出られたことはとても光栄でした。

ロシアはとても寒く、川まで凍ってました。テレビや写真などでしか見たことがなかったので、思わず写真を何枚も撮ってしまいました。様々なところを観光し、友達にイタズラなどをしました。遊ぶ時は思いきり遊んで、柔道の練習になると気持ちを切り替えて真剣に練習をしました。外国人の柔道は、日本と柔道スタイルが違うため、やりにくかったです。しかし、練習していくうちに段々と分かってきて、関節技や隅返しなどにも対応出来るようになりました。練習が終わったあとは、夜ご飯です。ロシアのご飯も日本と違いました。お茶も甘くて、ご飯もあまり口に合いませんでした。でも、スーパーで買ったジュースやお菓子は美味でした。食事が終わったあとはすぐにシャワーを浴びて、皆と話をしたり、遊んだりしました。このような日が何日か続き、試合前日になりました。この日は、計量という事も

あって、多くのチームがきていました。その日は、体重が2kg超過していたので、ベンチコートと2枚を着て、ずっと走っていました。皆の練習が終わっても走っていて、皆に迷惑をかけてしまいました。でも、打ち込みなど受けてもらい、体重は55.7まで落ちてギリギリクリアでした。その日の夜、皆に迷惑をかけたので、明日は全勝して取り返すと決めました。

そして試合当日。僕は会場に入った瞬間に、「今日は優勝出来る！」と思いました。今回の日本のチームは、皆柔道が好きで、チーム力が強かったので、本当にいけると思いました。試合が始まりました。1回戦は皆緊張していて、自分の柔道が出来ていなかったです。僕は、外国人に日本の柔道を見せてやろうと思って、背負いで勝とうとしていたけれども、寝技の隙があったので、寝技で勝ちました。結局、予選1～3回戦は寝技勝ちで、4回戦は背負投、準決勝・決勝は寝技で一本勝ちで、オール一本勝ちでした。そして、チームは優勝しました。チームの中には、決勝で負けた人もいたけれども、僕はその人達がいなかったら減量も出来ていなかったし、優勝も出来ていなかったと思います。皆でつかんだ優勝だったので、とても嬉しかったです。本当にいい経験が出来たなと思いました。この経験を活かして高校でも頑張りたいと思います。

【60kg級 福山 駿（夜須中学校）】

まずは、今回の遠征チームに選んでいただきありがとうございました。

今回の遠征は僕にとってすごく大きなものでした。理由は、短い期間だったけれど、中学校日本一や強豪校のチームメイトと生活して、一緒に試合が出来たからです。今後更に意識を高く持って、柔道に取り組めそうです。

僕は国内ではよく「力が強い」と言われるけれども、ロシア人には終始力負けして腰が引けた柔道でした。体格も苦手でかなり苦戦したから、色んな選手に対応出来るように練習します。技術ばかりではなく、筋力、柔軟性も本当に大切だと外国人の柔道から学びました。

でも僕はまだまだの選手で、次のチャンスがあるかもわかりません。高校ではまだ1年生だけれども、インターハイ優勝という目標に必ずたどり着けるように、やらされる練習ではなく、自分から求めていく練習を毎日積み重ねていきます。

柔道以外で学んだ事もあります。90kg級の森選手は、試合前日の軽量級選手の減量を手伝ったり、試合前に声をかけてくれたり、試合中もアドバイスを送ってくれて、自身はオール一本で、小さい時から意外と身近に感じるけど、本当にすごい人だと尊敬しました。次のカデとかは出られないけれども、その次からはまた一緒に試合をしたいです。

柔道以外では、色んな所に観光に行きました。ブラジミールさんの通訳のおかげでロシアの歴史を知ることが出来ました。思ったより寒くなくて、とても過ごしやすい国でした。レストランでは半ズボンの禁止など、日本とは違った常識が通じないところもあって、次にロシアに行くかはわからないけれども、良い勉強になりました。ただ、ご飯は食べられません。いくつか食べられないことはないような料理もあったけれども、8割無理でした。他の国の人は普通に食べていたので、日本の和食は特別なのかと思いました。言葉は、物を買う時やホテルのフロントにカードを取りに行く時などは別に困らなかったけれども、選手同士でのコミュニケーションはかなり厳しかったです。一流のアスリートになるためには、運動だけではなく学力も必要だと思いました。勉強も運動もこの遠征を通して学んだので、これからの自分に活かしていきます。

【66kg級 川口 桜次郎（城島中学校）】

今回、サンクトペテルブルクで、日の丸の道着を着て外国の選手と試合をするという良い経験が出来ました。

外国人と練習をして分かったことが4つあります。1つ目は、練習と試合では強さが全然違うということ。2つ目は、力が強く接近に強いということ。実際に試合でも、負けた試合は相手に接近された時に投げられていました。3つ目は、どこからでも技に入ってくるということ。どんなところからでも先に技に入ってくるので、なかなか攻められなかったところがありました。4つ目は、くっつかれたり持たれたりすると投げられるので、先にとって相手にどこも持たせないようにすると良いということ。2回戦は相手にどこも持たせないようにして技に入ると、とてもいい試合が出来ました。今後の課題として、もっとパワーとスピードをつけて、自分の柔道をしっかり、どんな相手とも出来るようにします。

最後に、大会で優勝出来て、皆でつかんだ優勝だったので、とても嬉しかったです。代表として選手に選んでもらって、とてもいい経験をさせてもらって、とても感謝しています。この経験を活かして、国際大会で活躍出来る選手になりたいです。

【73kg級 山城 悠雅（夜須中学校）】

今回、プーチン杯に選手として選んでいただきありがとうございました。自分は外国での練習や試合などはしたことがなくて良い経験が出来ました。

練習では、ロシア人の柔道の形など、奥襟をしっかり持ち変則技がとても多く、ロシア柔道に慣れるのに時間がかかりました。試合でも、ロシア柔道に対抗出来ず、簡単に奥襟をとられ、引き付けられ投げられることが多くあり、一本を何度も取られました。自分が対抗出来なかつただけではなく、一回戦目に負けても、そこから気持ちを入れ替えることが出来ない自分があったと思いました。

このプーチン杯では、技術面など精神的な事など色々学ぶことが出来ました。今回のプーチン杯で、ロシアの柔道や文化など知ることができ、視野が広がりました。経験を活かし、高校ではインターハイに出場し、優勝するように頑張ります。

【81kg級 熊谷 一起（夜須中学校）】

今回、僕にとって初めての外国遠征でした。慣れない環境の中で色々な事を学びました。

ロシアでの練習場は、レスリングのマットで柔らかくて、とても練習がしにくかったです。しかしその中で、ロシアの選手と練習をして、ロシアの柔道スタイルがだんだん分かってきました。

一日目、時差の関係でいつもの半分くらいの練習メニューでバテバテでした。二日目、少し環境にもロシアの柔道にも慣れて、いつもの力が出せるようになりました。観光ではウラジミールさんの分かりやすい説明で、とても勉強になりました。三日目、この日は計量がありました。危なかった人もいたけれども、全員クリア出来て良かったです。

試合の日、試合では自分の柔道が少しは通じるんだなと思いました。とてもチームに迷惑をかけてしまいました。しかし皆が頑張ってくれたおかげで優勝出来て、とてもうれしかったです。試合の反省は、まず1回戦、不要な指導をもらって負けました。同じように2回目も負けました。やはり、すぐ妥協する自分の弱い所が出てしまったと思います。3回目はだ

んだん試合に慣れすぎて、少し集中力が切れていたから、技を返されたと思います。この3つは、本当は勝てたと思っています。しかし負けたのは、やはり試合に取り組む姿勢、練習の追い込み方。その2つが足りなかったと思います。それが出来ていれば、集中力が切れることなく、ずっと強い気持ちをもって試合が冷静に出来ていたと思います。決勝は完璧に負けて、とてもすがすがしかったです。

日本人がかけない技。組み手。練習の時の態度。日本人とは全く違いました。だからこそ、外国人に勝つには、組み手と一本を確実に取れる技、そして寝技だと思いました。見た感じ、組み手は力が強かったです。それに負けない技術を身に付けないといけないと思いました。

さらにルールが変わります。引き分けがなくなり、勝つか負けるかになりました。一本勝ち出来る技がないと、いくらスタミナがあったとしても、試合のたびにGSになり、上にいくほど体力がなくなり負けてしまうので、やはり一本を取れる技がないとだめだなと思いました。そして、寝技です。関節技は上手なのですが、寝技そのものは上手ではないので、寝技が強ければ勝率が高くなると思いました。この3つを高校では強化して、レギュラーに入れるように頑張ります。本当にとっても良い経験でした。この経験を忘れず、頑張ります。

【90kg級 森 健心（松原中学校）】

今回の遠征で自分は沢山のことを学べたと思います。自分が外国人選手との練習や試合の時に心がけていることは、組み手の妥協を絶対にしないことと、どんな状況であっても絶対に後ろに下がらないことを心がけてやっています。こういうことを心がけてやっていくうちに、自分の間合いや自分の流れ、ペースに持っていけるんじゃないかなと思います。

外国人とやる時、接近するとやっぱりパワーや体の力で自分は劣っているのでやられてしまうけれども、それ以外は勝っていると思います。だから組めば勝てるし接近されればやられる。その勝負が自分の中では大事だと思うから、外人とやる時最初に考えるのが組み手と自分の間合いをしっかりと取るということかなと思います。

あと、技をかけてつぶれそうになる所を返してポイントを取られるという場面もとても多いので、最後までかけきることが大事だということを改めて感じました。その逆で自分も相手がかけてきた技をそのまま潰さず、しっかり返し切ることも大事だと思いました。そのためには練習で相手に技をかけてもらい、その技を返して寝技へ移行して押さえ込む反復練習が大事だと思いました。そうすると手強い相手に対して一瞬の隙を逃がさず勝てるんじゃないかなと思いました。

試合中に思ったことは、外人は疲れると開始線の後ろに立つので、急いで組みにいくと下がる場所がなくて慌てて前に出てくるので、そこにチャンスが生まれ、勝てる確率が増えるんじゃないかなと思いました。

自分はこの試合で投げて勝つことが出来ませんでした。いつもは投げられるのに投げられなかったのは、外国人に多い、最後に体をひねってくるのを上手にキメることが出来なかったことと、足技をあまり使っていなかったところかなと思いました。その中でも一本勝ちが出来たのは、1つの小さなチャンスを自分の物にして寝技で押さえ込んだり出来たのかなと思いました。小さなチャンスを物に出来ることは、地味だけど大きいものだなと思いました。

自分は中学校に入って団体戦というものをあまりすることがなかったけれども、この大会

で団体戦を経験出来たのは、今後の自分にとっても役に立つ大事な武器になったと思いました。特に勝たなくてはいけない場面で試合が出来たことは、高校でもその場面があると思って、練習のつもりでやりました。

将来、自分で考えることを止めず取り組む練習をして、その先にオリンピック国際大会で優勝出来る選手になります。そして常に自分の考えを説明出来るようになります。

自分1人で強くなっているわけじゃないということを最近分かってきたので、感謝の気持ちを忘れず最強且つ最高の選手になります。

【90kg 超級 久保田皓晴（白銀中学校）】

今回は、このような貴重な体験をさせていただき、本当に感謝しています。ロシア遠征では改めて色々な事を学ばせてもらいました。

まず1つ目は、色々な人に支えられているということ。今回自分にこのような機会を与えて下さった久野先生、野口先生、渡邊裕先生、渡邊敏先生、福岡県柔道協会の方々、見ず知らずの僕達に優しく接してくれた、ウラジミールさん、ダーニャ、ダーニャのパパ、色々な方の支えで「優勝」という経験、沢山の「思い出」、寒かったり、不味かったりと「苦い体験」をさせてもらいました。その全てをステップにして高校での頂点を目指していきたいと思います。

2つ目は、仲間の大切さです。今回優勝出来たのは、頼りになる仲間のおかげでした。先鋒で常にチームの流れを作ってくれた犬塚、安定感抜群の山口、先にポイントを奪われてもなぜか安心して見ていられる福山、余裕があり強さがにじみ出ている川口、どれだけ投げられても最後まであきらめない山城、ポカが多いけれども相手を追い詰めていく熊谷、絶対的なポイントゲッター森。皆のおかげで自分は安心して柔道が出来ました。今回、上手く結果が出なかった山城と熊谷は、必死に練習をすると思うし、全勝の山口と森は、多分これからも強くなると思います。他のメンバーも強くなってくると思います。だから自分もメンバーに負けないように頑張る、最終的には今回共に成長出来た仲間と、県、九州、全国で上位に上がりたいです。

本当にこのロシア遠征に参加出来て良かったです。



・ヤワラーM スヴェトラナ先生



・試合会場（テニスコート）

あとがき

5年ぶり二度目の優勝という最高の成果を上げて、全員無事に帰国いたしました。普段通りの実力を出せた選手、思うようにいかなかった選手、双方いましたが、いずれも貴重な経験になったことと思います。

個人的には4年ぶりの参加でしたが、私自身、良い勉強になりました。今後様々な形で、この貴重な経験を次世代の子供たちに伝え、また、一緒に参加した選手達の成長、活躍を自身のフィールドの範囲内でしっかりとサポートしたいと思います。

まずは、この貴重な経験の機会を与えていただきました藤田会長ほか関係の皆さまに感謝申し上げます。

そして、今回の遠征実施に当たり、絶大なるご支援を賜ったサニックススポーツ振興財団、福岡県柔道協会、そして、現地での全面的なサポートをいただいたロシア・ヤワラーMのスベトラナ校長先生、現地で通訳としてサポートいただいたウラジミールさんほか関係の皆さまに深甚なる謝意を申し上げ、報告とさせていただきます。感謝。



・凍るネヴァ川



・サンクトペテルブルクの街並み

以上
文責 渡邊 裕二